

**DMG森精機株式会社**

**2022年度第3四半期決算(1-9月)決算説明資料**

**2022年11月7日**

---

## 1. 2022年度第3四半期(1-9月)決算概要

### 2. 事業環境

### 3. 工程集約、自動化、DX化促進

- ① ドイツAMB 2022（シュトゥットガルトショー）活況
- ② 米国シカゴテクノロジーデイズ、新分野事業拡大
- ③ JIMTOF2022 + 東京グローバルヘッドクォータ オープンハウス同時開催
- ④ 奈良商品開発センタ(奈良PDC) 8月に開所

### 4. ESG / CSR進捗

- ① 人材投資：社員待遇改善、健康経営定着
- ② 業界技術向上への貢献：第17回切削加工ドリムコンテスト開催
- ③ カーボンニュートラルの取り組み推進（第三者保証取得済）

## 2022年度第3四半期(1-9月) 決算ハイライト

**DMG MORI**

- ✓ 第3四半期累計（1-9月） 連結受注 4,320億円（前年同期比27%増）  
第3四半期（7-9月） 連結受注 1,326億円（前年同期比 9%増）

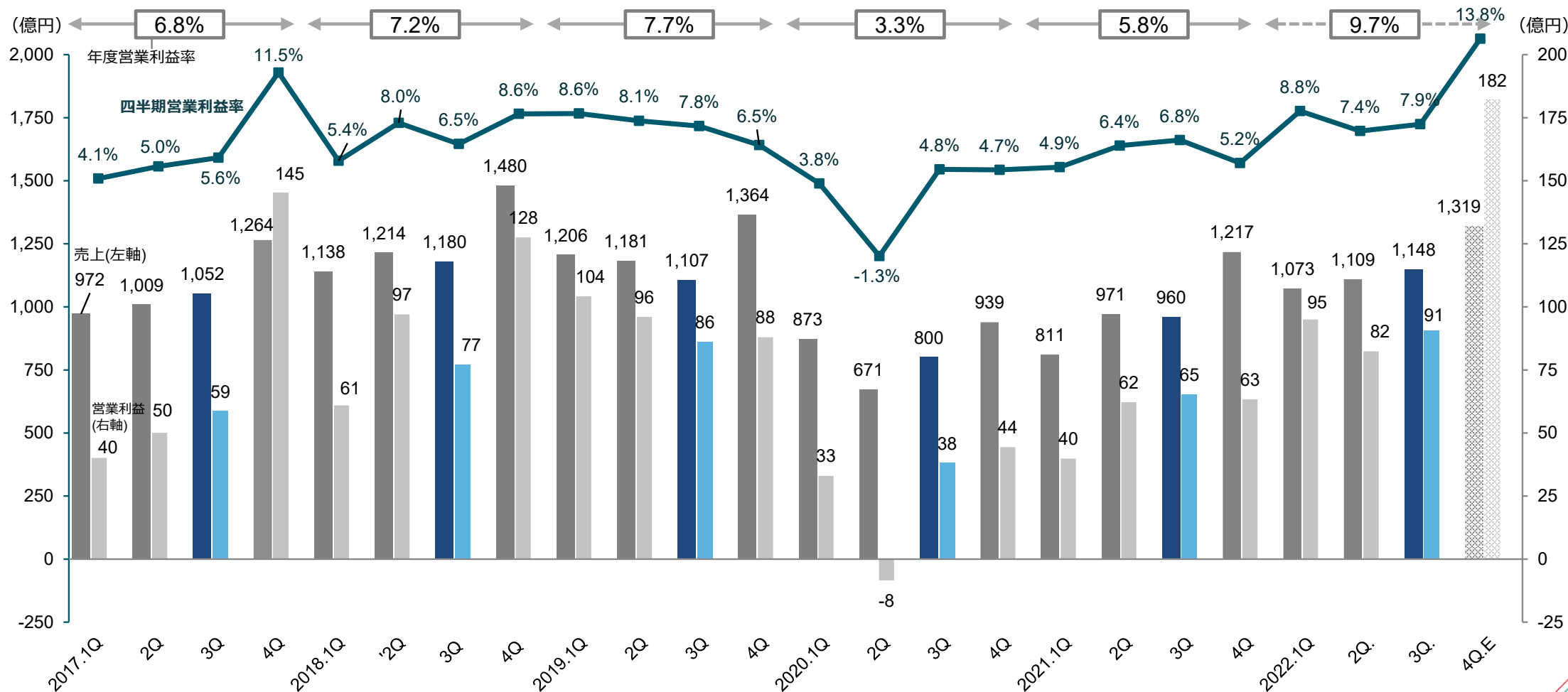
- ✓ 機械本体の受注残高 2,740億円(9月末)へ増加（2021年12月末 1,640億円）

- ✓ 受注単価49.3百万円(2021年度平均: 39.4百万円) 工程集約、自動化、DX化、及び円安が寄与

(億円)	2019年 1-9月	2020年 1-9月	2021年 1-9月	2022年 1-9月	増減 (%)
<b>連結受注</b>	3,211	2,065	3,403	<b>4,320</b>	+27
連結受注残	1,740	1,170	1,680	<b>2,740</b>	
<b>売上収益</b>	3,493	2,344	2,743	<b>3,330</b>	+21
<b>営業利益</b>	286	62	167	<b>268</b>	+60
営業利益率	8.2%	2.7%	6.1%	<b>8.0%</b>	
<b>当期利益</b>	153	0	99	<b>166</b>	+68
償却費(リース含む)	168	174	162	<b>174</b>	
設備投資額	130	106	133	<b>293</b>	
USD/JPY	109.2	107.6	108.5	<b>128.1</b>	
EUR/JPY	122.7	120.9	129.8	<b>136.0</b>	

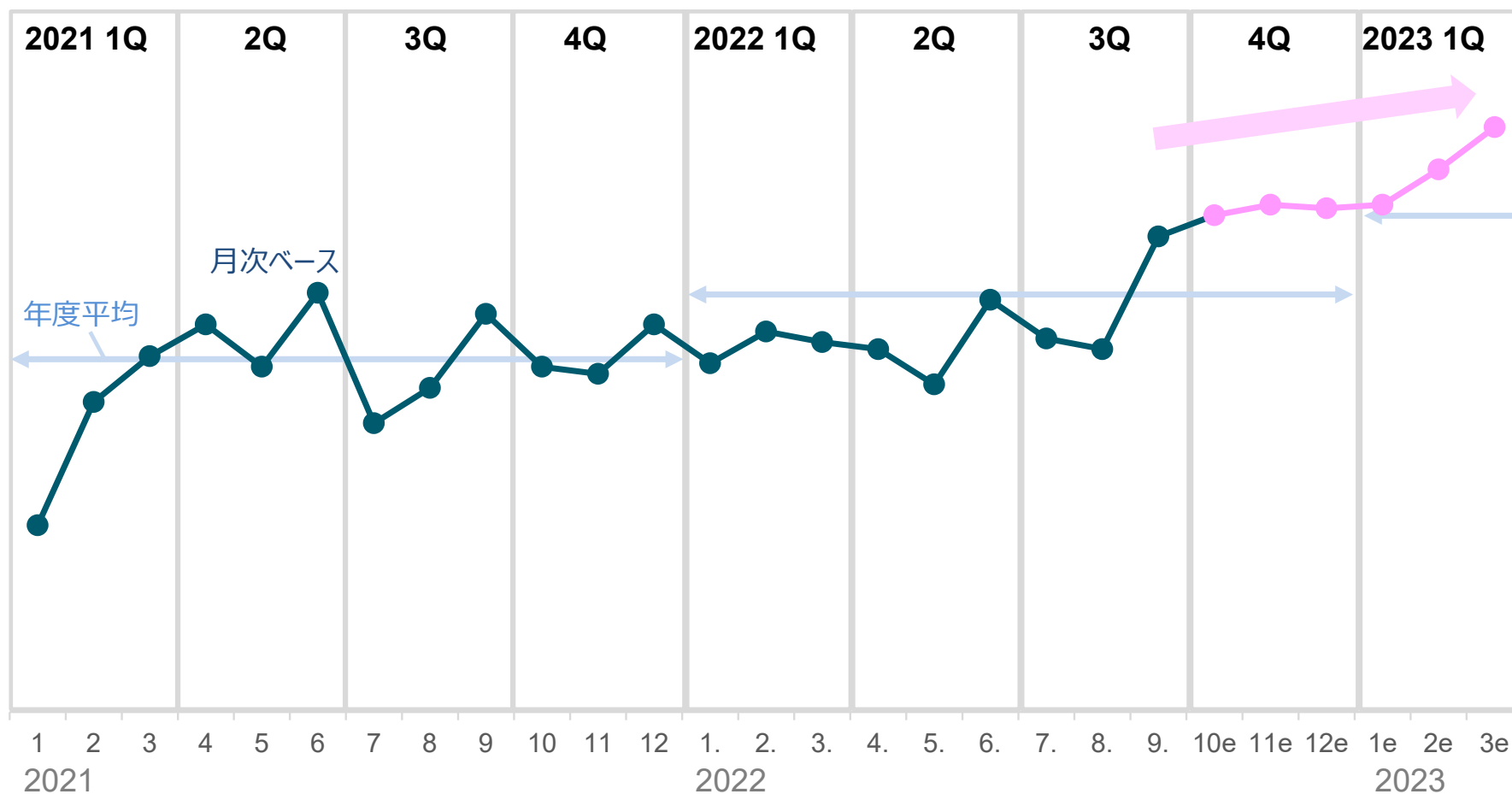
# 四半期業績推移

- 第3四半期(7-9月)の営業利益率改善。値上げ効果、生産性改善が寄与
- 年度営業利益率は過去最高水準（AG統合後）を確保へ



# 機台別徹底管理による粗利益率の改善状況

- 2021年10月以降の値上げは、2022年9月から粗利益率改善に本格寄与
- 第4四半期以降の収益率は大きく改善する見込み

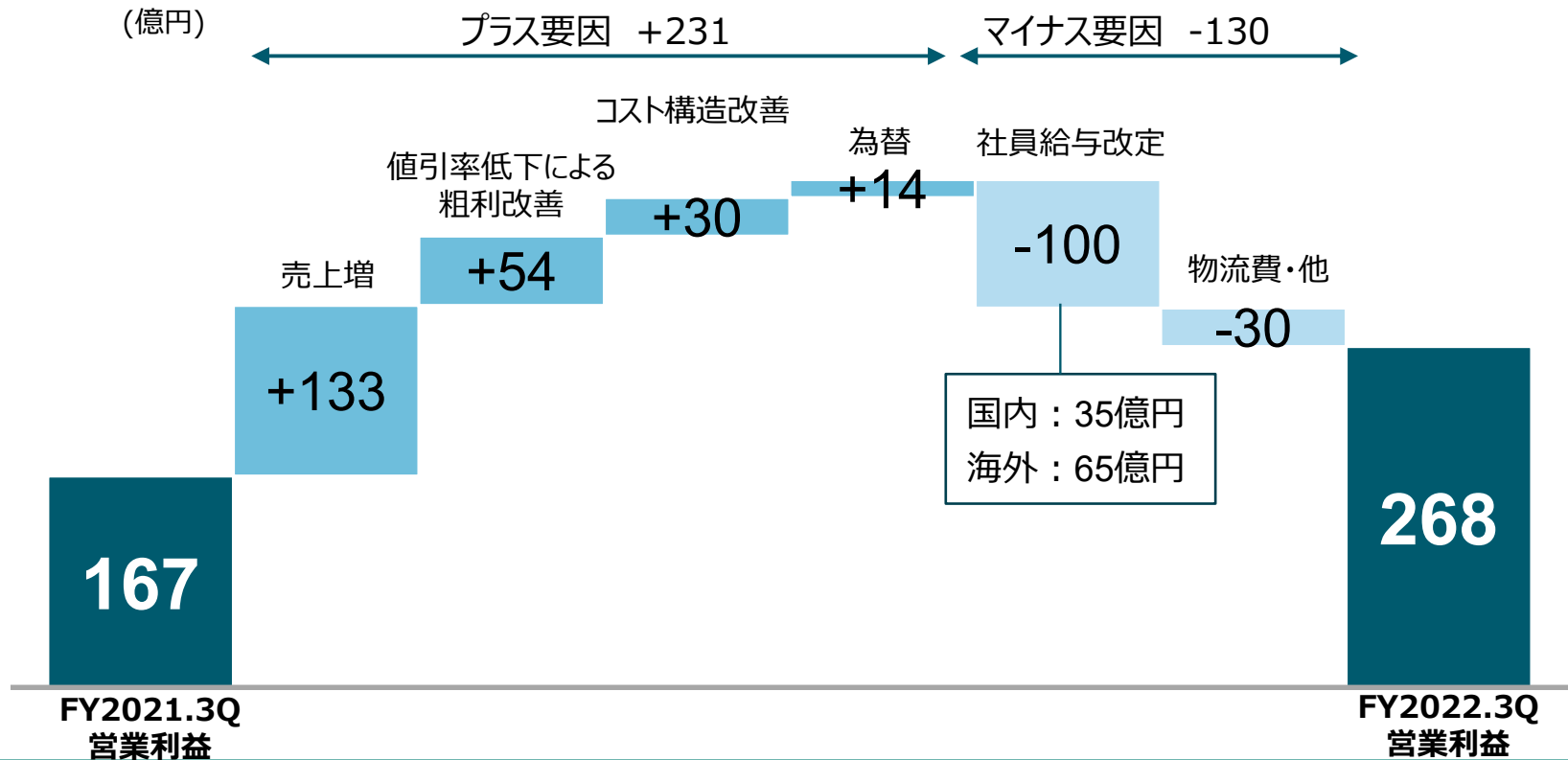


営業利益増減分析  
2021年度第3四半期（1-9月） vs 2022年度第3四半期（1-9月）

- ・グローバルで社員の給与改定。日本社員の給与を7月から改定(今期6ヵ月分反映)。日本社員の年度平均年収は2021年度比23%増
- ・短納期・廉価販売の決別に加え、機台別管理の徹底による粗利改善が寄与

(億円)	FY2021.3Q	FY2022.3Q	増減
売上収益	2,743	3,330	+588

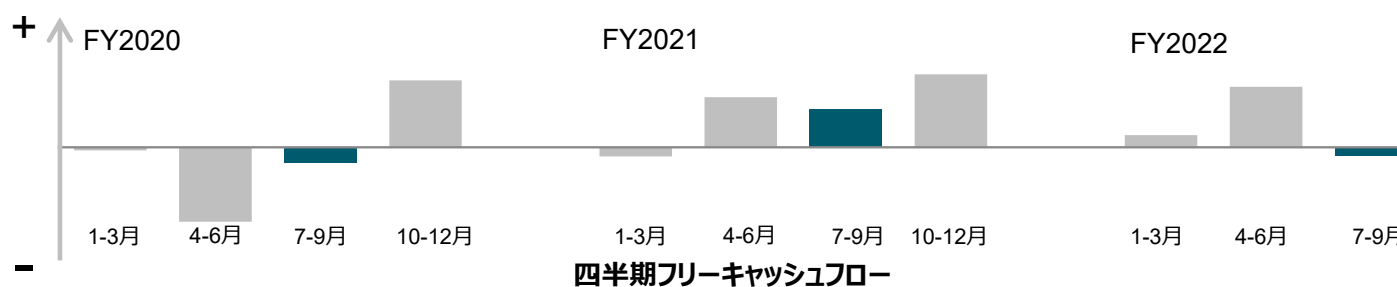
為替レート:	USD/円	FY2021.3Q	FY2022.3Q
	EUR/円	108.5	128.1
		129.8	136.0



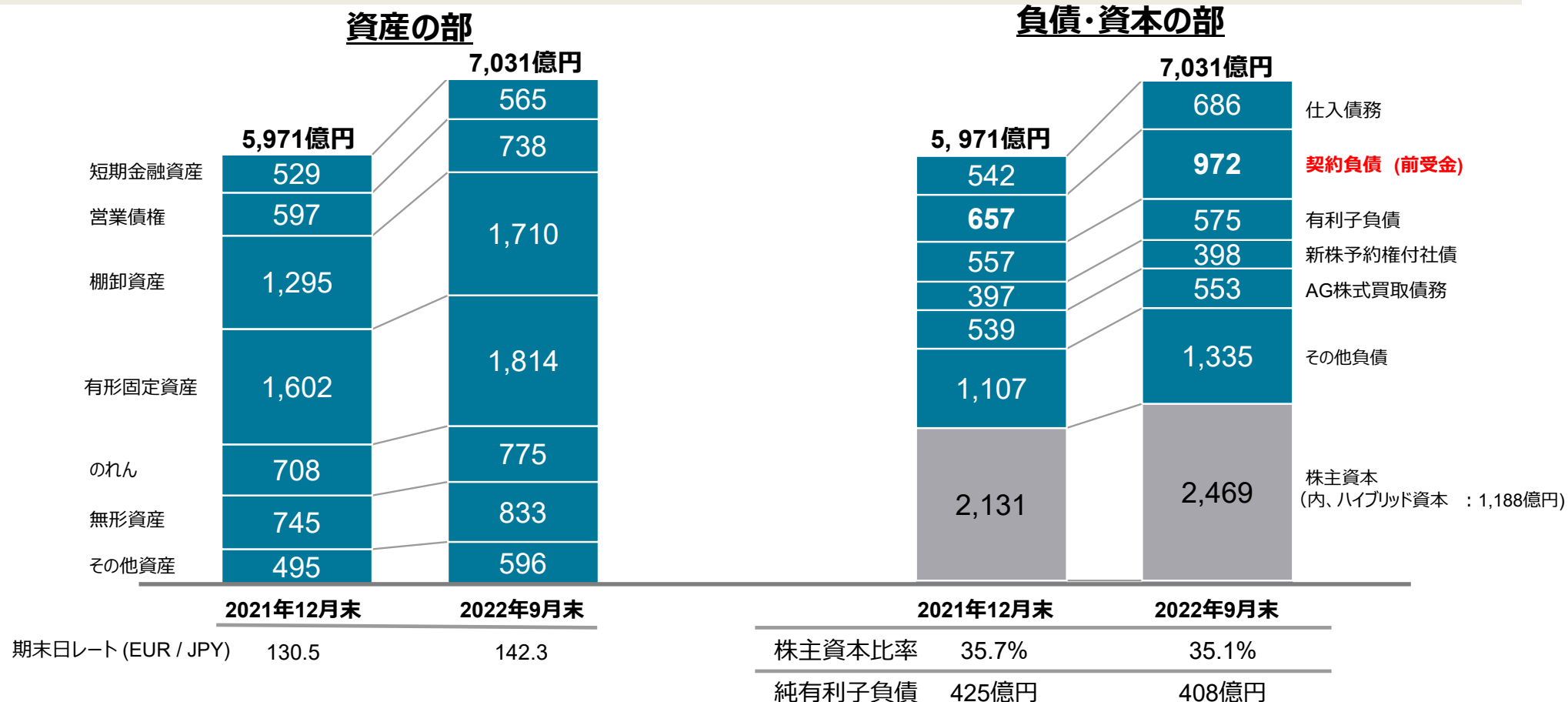
# キャッシュ・フロー

- 第3四半期累計（1-9月）フリーキャッシュフローは128億円の黒字。前受金の増加が寄与
- 年度フリーキャッシュフローは従来計画通り300億円を達成見込み

(億円)	2020					2021					2022					FY (計画)
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	YTD		
<b>営業キャッシュフロー</b>	<b>25</b>	<b>-109</b>	<b>-5</b>	<b>226</b>	<b>136</b>	<b>26</b>	<b>134</b>	<b>106</b>	<b>231</b>	<b>497</b>	<b>125</b>	<b>236</b>	<b>101</b>	<b>462</b>	<b>700</b>	
税引前四半期利益	13	-18	28	28	51	31	54	56	55	196	89	74	80	243		
償却費	59	57	58	67	241	55	54	53	57	219	56	60	58	174		
運転資本増減	44	-106	-54	140	22	-35	53	23	118	159	-18	99	-9	72		
その他	-90	-42	-37	-9	-178	-25	-27	-27	2	-77	-2	4	-29	-28		
<b>投資キャッシュフロー</b>	<b>-31</b>	<b>-39</b>	<b>-25</b>	<b>-93</b>	<b>-189</b>	<b>-45</b>	<b>-34</b>	<b>-30</b>	<b>-85</b>	<b>-194</b>	<b>-101</b>	<b>-115</b>	<b>-118</b>	<b>-334</b>	<b>-400</b>	
(うち有形・無形資産取得支出)	-29	-41	-35	-96	-201	-44	-31	-57	-100	-233	-102	-89	-102	-293		
<b>フリーキャッシュフロー</b>	<b>-6</b>	<b>-149</b>	<b>-31</b>	<b>133</b>	<b>-52</b>	<b>-18</b>	<b>100</b>	<b>76</b>	<b>146</b>	<b>304</b>	<b>24</b>	<b>121</b>	<b>-17</b>	<b>128</b>	<b>300</b>	



- 円安により総資産は約550億円増加
- Net D/Eレシオは0.17、有利子負債の削減と収益改善による資本充実が寄与



9月末 Net D/Eレシオ **0.17** (2021年12月末 0.20)



## 2022年12月期 通期業績予想

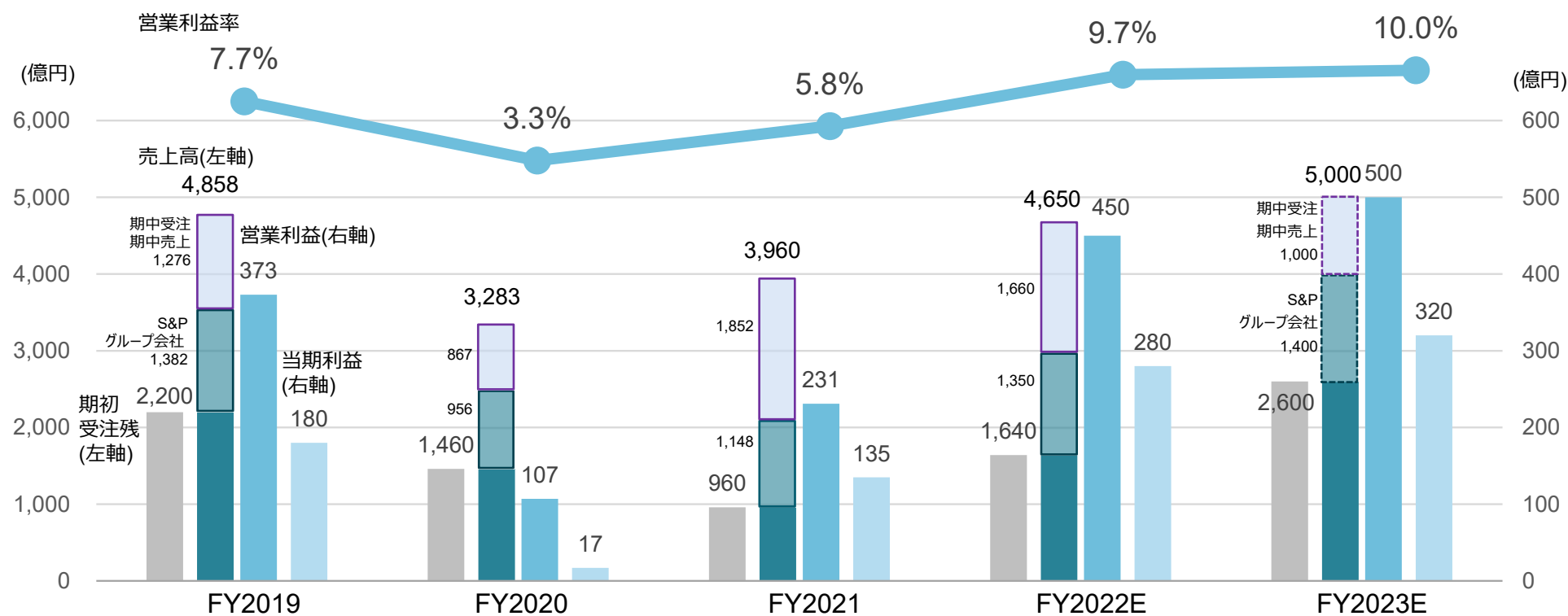
**DMG MORI**

- 年度連結受注を再度増額修正 5,500億円（機械本体：4,150億円、S&P：1,000億円、グループ会社他：350億円）
- 年度売上を4,650億円へ増額修正。営業利益、当期利益は従来計画を確保見込み

(億円)	2019年 実績	2020年 実績	2021年 実績	2022年			2023年	
				計画	YoY (%)	従来予想	計画	YoY (%)
連結受注	4,094	2,797	4,560	<b>5,500</b>	+20.6%	5,300以上	<b>5,000</b>	-9.0%
売上収益	4,858	3,283	3,960	<b>4,650</b>	+17.4%	4,500	<b>5,000</b>	+7.5%
営業利益	373	107	231	<b>450</b>	+95.1%	450	<b>500</b>	+11.1%
営業利益率	7.7%	3.3%	5.8%	9.7%		10.0%	10.0%	
当期利益	180	17	135	<b>280</b>	2.1倍	280	<b>320</b>	+14.3%
1株当たり当期利益 (円)	138.64	3.40	91.75	<b>209.80</b>		209.80	<b>241.78</b>	
配当金 (円/株)	60	20	40	<b>70</b> <small>(中間:30円, 期末:40円)</small>		70	<b>80</b>	
償却費(リース含む)	231	241	219	<b>240</b>		240	270	
設備投資額	212	201	233	<b>400</b>		350	300	
USD/JPY	109.1	106.8	109.8	<b>131</b>	<small>4Q想定</small> 140	120	140	
EUR/JPY	122.1	121.8	129.9	<b>137</b>	140	135	140	

# 2023年12月期目標

- 来期も増収増益計画。売上5,000億円：受注残からの売上2,600億円、S&P及びグループ会社1,400億円、期中受注期中売上1,000億円
- 工程集約、自動化、DX化により収益率は引き続き改善。営業利益率10%以上を目指す



純有利子負債	755億円	644億円	425億円	224億円	185億円
Net D/E レシオ	0.61	0.35	0.20	0.10	0.07
株主資本比率	23.6%	35.2%	35.7%	37%	40%
1株当たり配当	60円	20円	40円	70円	80円

## 1. 2022年度第3四半期(1-9月)決算概要

## **2. 事業環境**

### 3. 工程集約、自動化、DX化促進

- ① ドイツAMB 2022（シュトゥットガルトショー）活況
- ② 米国シカゴテクノロジーデイズ、新分野事業拡大
- ③ JIMTOF2022 + 東京グローバルヘッドクォータ オープンハウス同時開催
- ④ 奈良商品開発センタ(奈良PDC) 8月に開所

### 4. ESG / CSR進捗

- ① 人材投資：社員待遇改善、健康経営定着
- ② 業界技術向上への貢献：第17回切削加工ドリムコンテスト開催
- ③ カーボンニュートラルの取り組み推進（第三者保証取得済）

# 連結受注推移

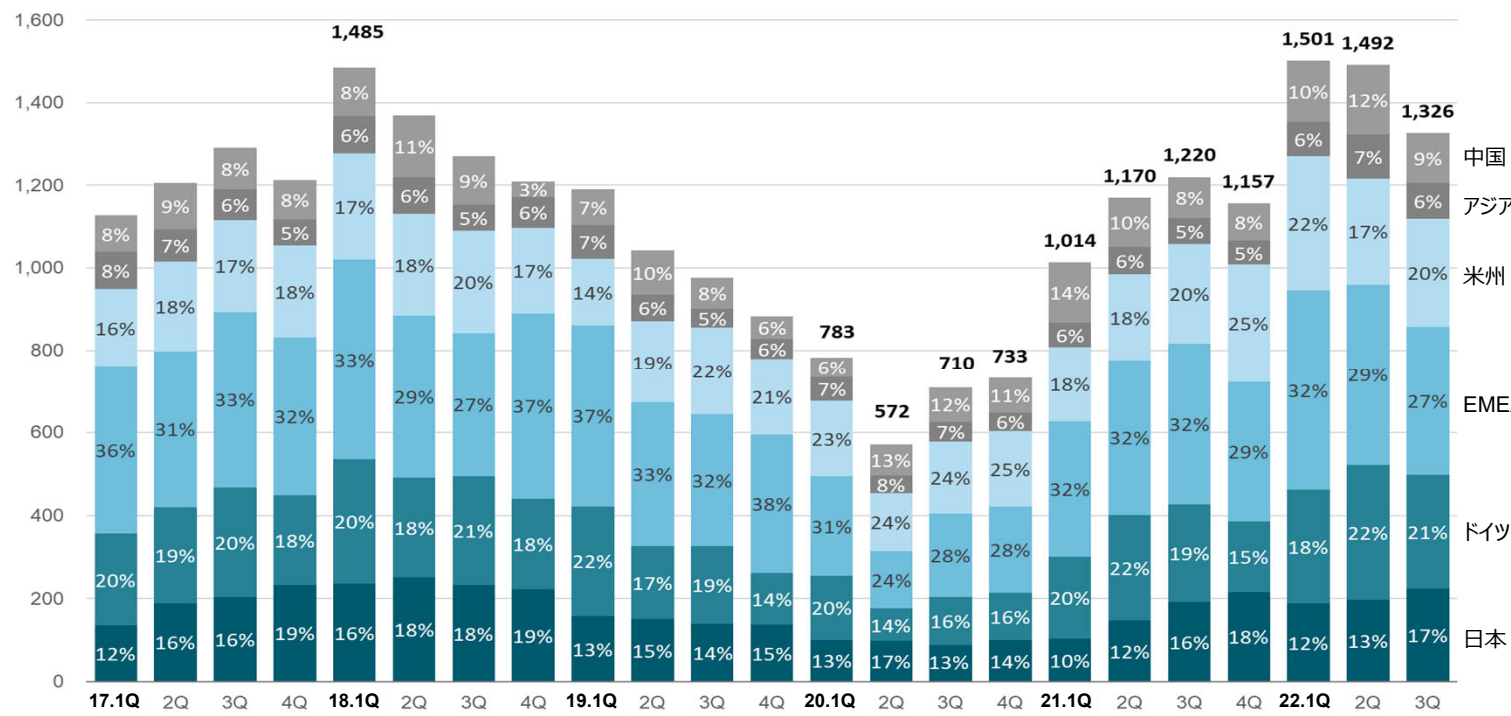
- 今年度受注計画は5,500億円とピーク更新
- 来年度受注は5,000億円予想。サービス・パーツ部門及びグループ会社受注は堅調に推移

(億円)

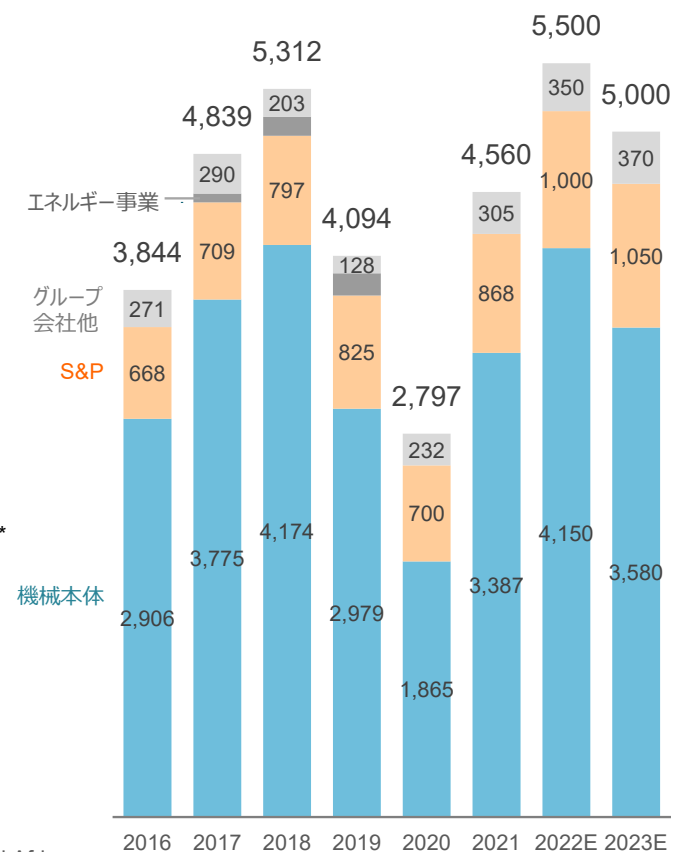
年度

四半期

(億円)



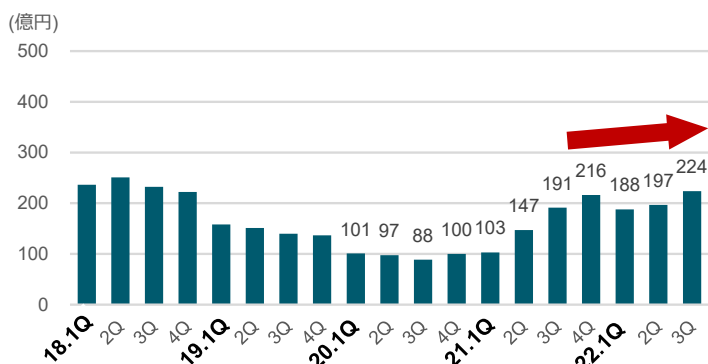
\*Europe, the Middle East and Africa



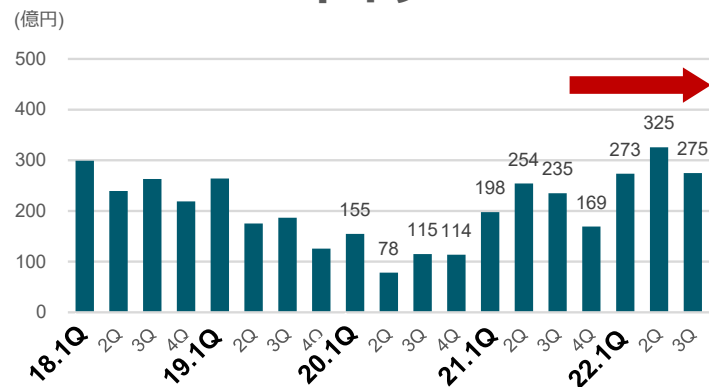
# 地域別受注推移

- 日本、米州、ドイツ、アジアは高水準持続
- EMEA、中国は、引合いは高い水準だが、投資決定までのリードタイムが長期化

## 日本

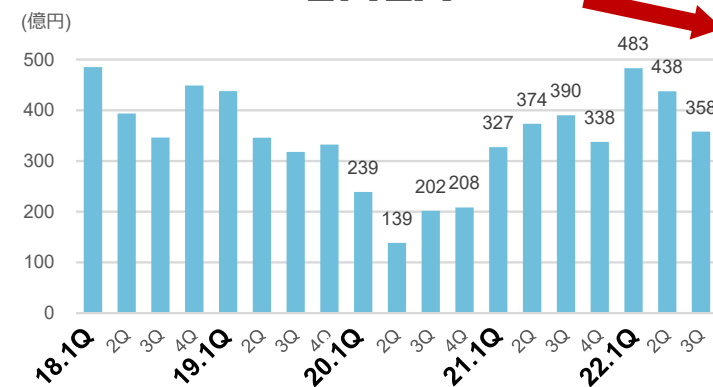


## ドイツ

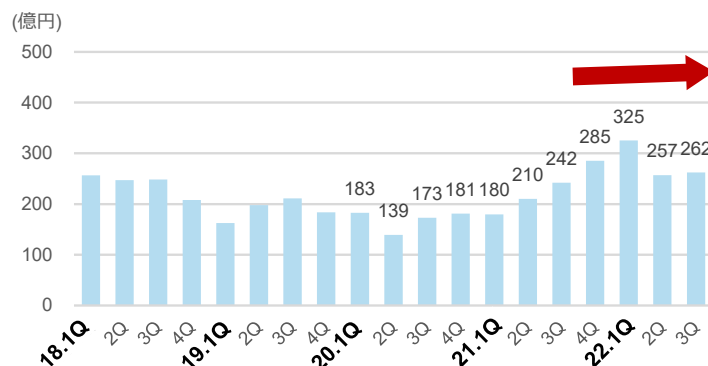


## EMEA

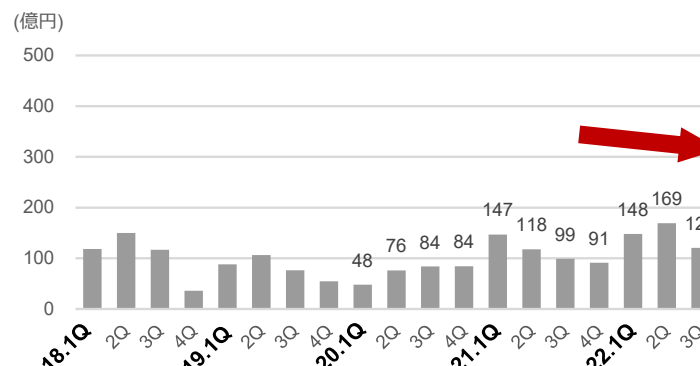
\*Europe, the Middle East and Africa



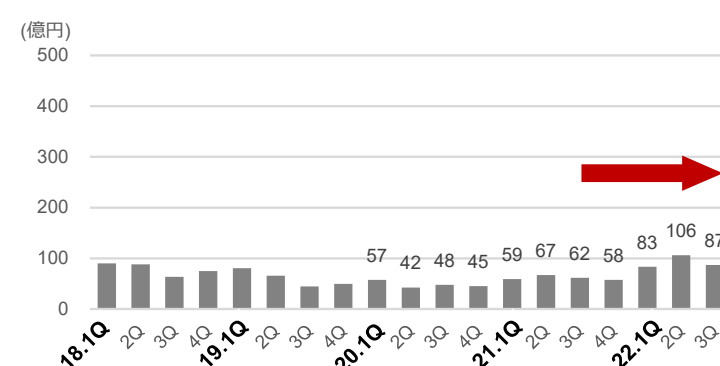
## 米州



## 中国



## アジア

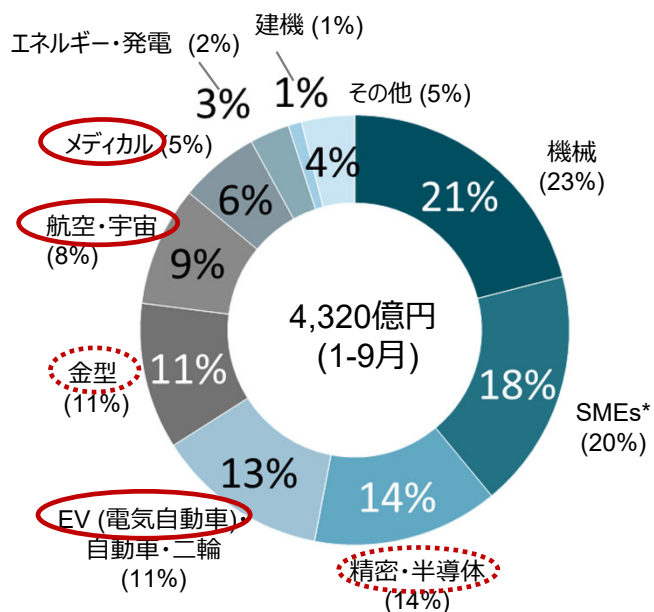


# 連結受注構成 (1-9月)

- 宇宙、航空、メディカル、EV関連の受注好調
- 中堅、大手企業の投資意欲は旺盛

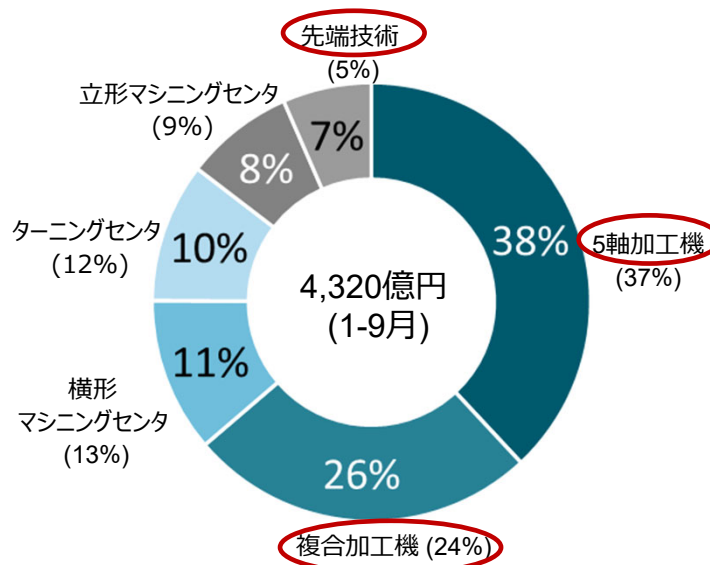
※金額ベース  
※カッコ内：2021年1-12月

業種別

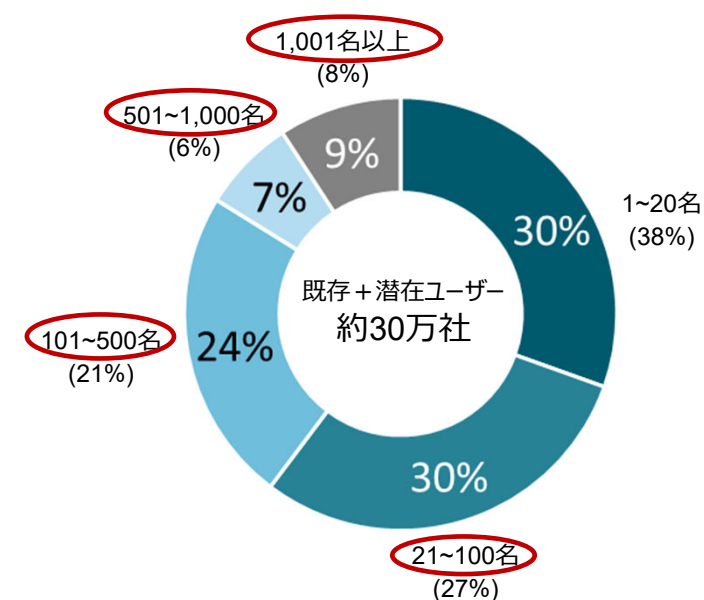


\*Small and medium-sized enterprises

機種別

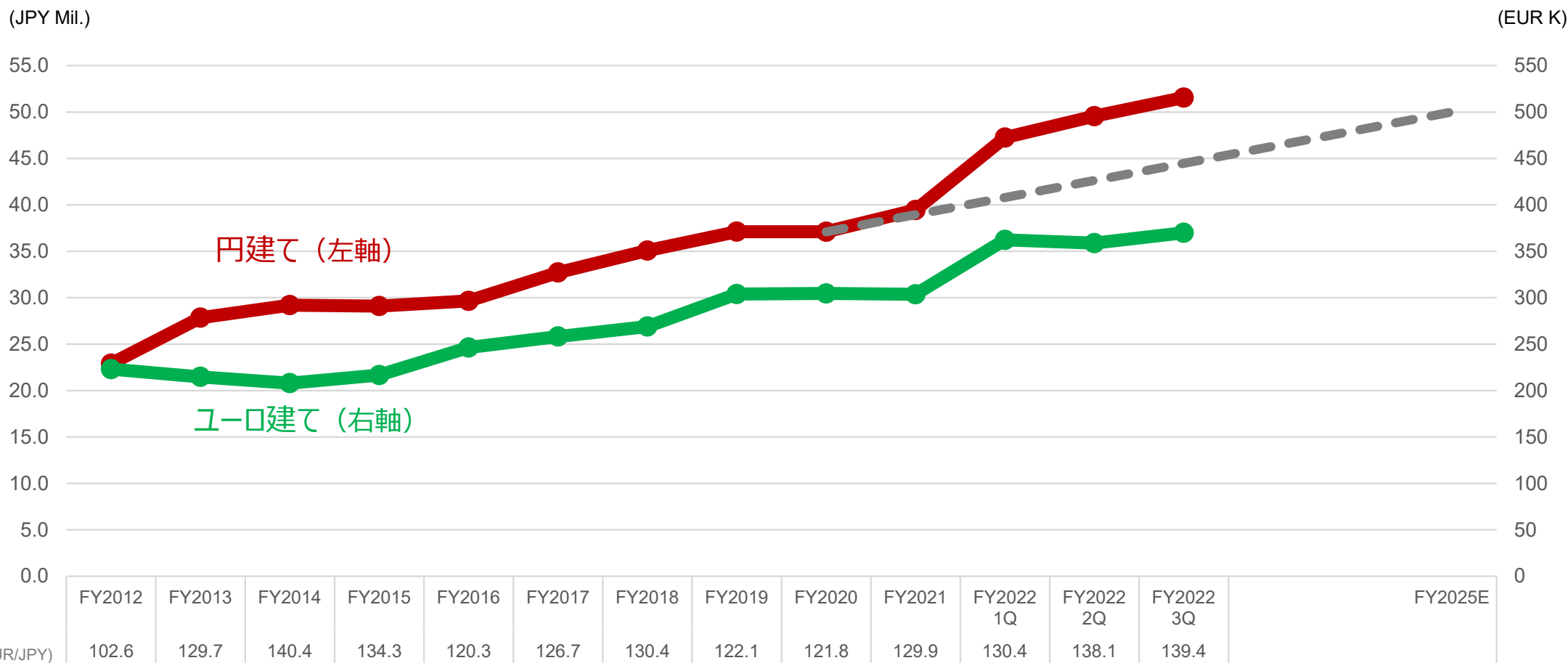


規模別



# 1台あたりの機械受注単価推移

- 第3四半期の受注単価は 51.6百万円 へ大きく伸長 (2021年実績 : 39.4百万円)
- 工程集約、自動化、DX化、値上げ浸透、及び円安が寄与



## 1. 2022年度第3四半期(1-9月)決算概要

## 2. 事業環境

## 3. 工程集約、自動化、DX化促進

① **ドイツAMB 2022（シュトゥットガルトショー）活況**

② **米国シカゴテクノロジーデイズ、新分野事業拡大**

③ **JIMTOF2022 + 東京グローバルヘッドクォータ オープンハウス同時開催**

④ **奈良商品開発センタ(奈良PDC) 8月に開所**

## 4. ESG / CSR進捗

① 人材投資：社員待遇改善、健康経営定着

② 業界技術向上への貢献：第17回切削加工ドリムコンテスト開催

③ カーボンニュートラルの取り組み推進（第三者保証取得済）



# ドイツ AMB 2022

# DMG MORI

📅 2022年9月13日-17日 ドイツ シュトゥットガルトで開催

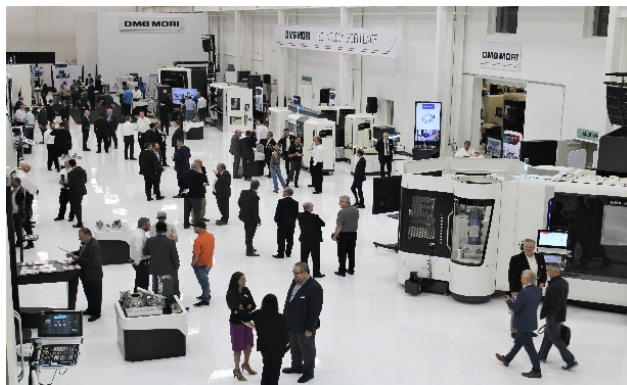




# Technology Days Chicago

# DMG MORI

📍 2022年9月11日-14日 シカゴでテクノロジーデイズ開催



米国  
初出展



NTX 500 + IMTR (In Machine Traveling Robot:  
機内走行式ロボットシステム)



NLX 2500 | 700 + MATRIS Light



# JIMTOF2022 / 東京グローバルヘッドクォータ オープンハウス同時開催

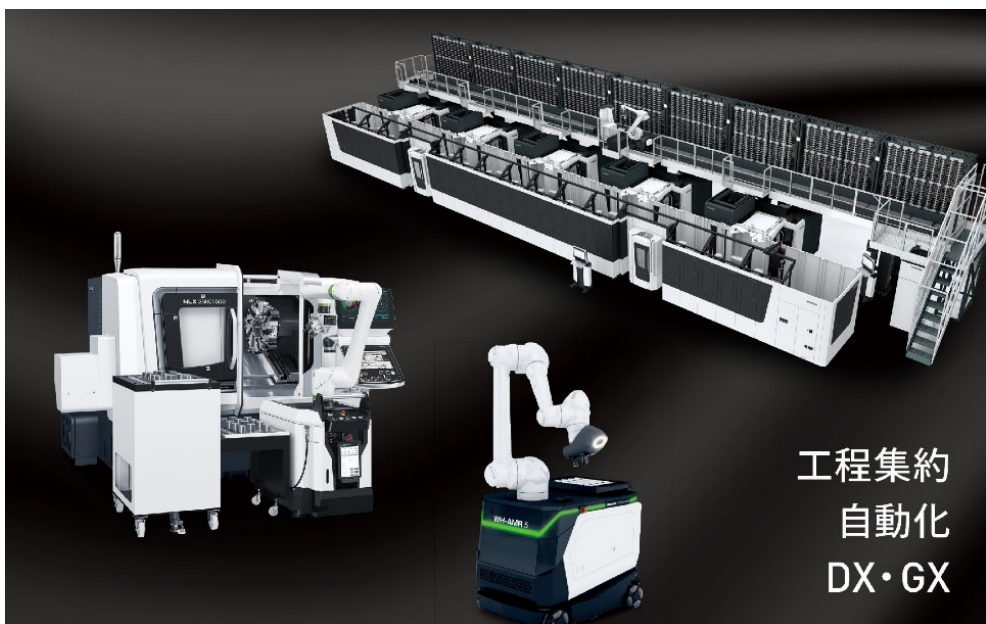
# DMG MORI

✓ 11月8日(火)-13日(日) JIMTOF2022 開催

シャトルバス  
20分  
🚌

✓ 東京グローバルヘッドクォータ オープンハウス

## 東京ビッグサイト 東8ホール



工程集約  
自動化  
DX・GX



NTX 500 + IMTR

日本  
初出展



LASERTEC 3000 *DED hybrid*



NZ Platform

✔ 東京グローバルヘッドクォータ オープンハウス (11/8-11/13)でAM Lab & Fabの初披露

AM Lab & Fab : アディティブマニュファクチャリングによる受託加工サービス



アディティブマニュファクチャリング エクセレンスセンタ (AMEC)



パウダーノズルボディ



脛骨プレート



ダイカットロール



ロケットノズル



## 奈良商品開発センタ(奈良PDC)開所

**DMG MORI**

2022年8月 奈良商品開発センタ(奈良PDC)開所式を開催

JR奈良駅前で産学連携を含めた技術者交流の推進



## 1. 2022年度第3四半期(1-9月)決算概要

## 2. 事業環境

## 3. 工程集約、自動化、DX化促進

- ① ドイツAMB 2022（シュトゥットガルトショー）活況
- ② 米国シカゴテクノロジーデイズ、新分野事業拡大
- ③ JIMTOF2022 + 東京グローバルヘッドクォータ オープンハウス同時開催
- ④ 奈良商品開発センタ(奈良PDC) 8月に開所

## 4. ESG / CSR進捗

- ① **人材投資：社員待遇改善、健康経営定着**
- ② **業界技術向上への貢献：第17回切削加工ドリムコンテスト開催**
- ③ **カーボンニュートラルの取り組み推進（第三者保証取得済）**

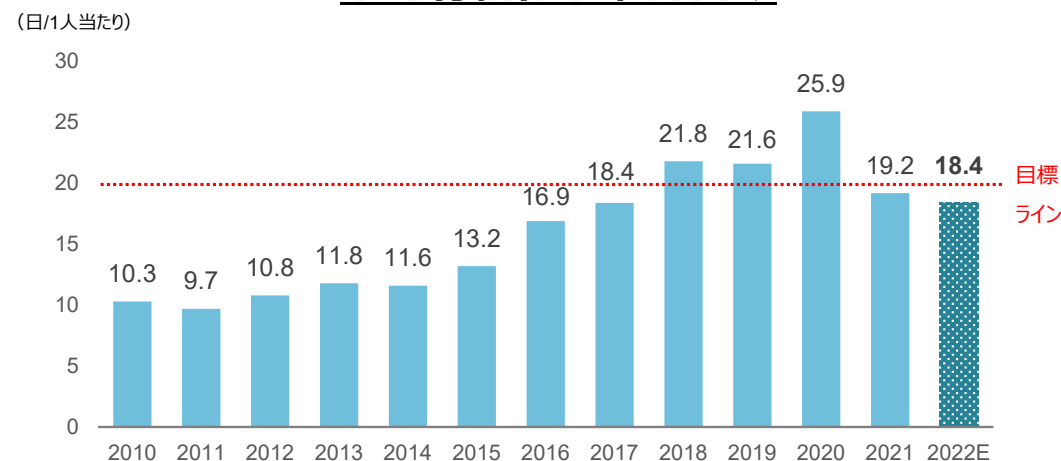
### 新卒初任給の改定（2023年4月入社）

卒業・学位	標準年齢	初任給	初任年収
博士	27歳	475,000円*1	6,825,000円*2
修士	24歳	310,000円	4,650,000円
大学(学部卒) 高等専門学校専科	22歳	300,000円	4,000,000円
高等専門学校本科 短期大学	20歳	290,000円	3,700,000円
高等学校	18歳	280,000円	3,500,000円

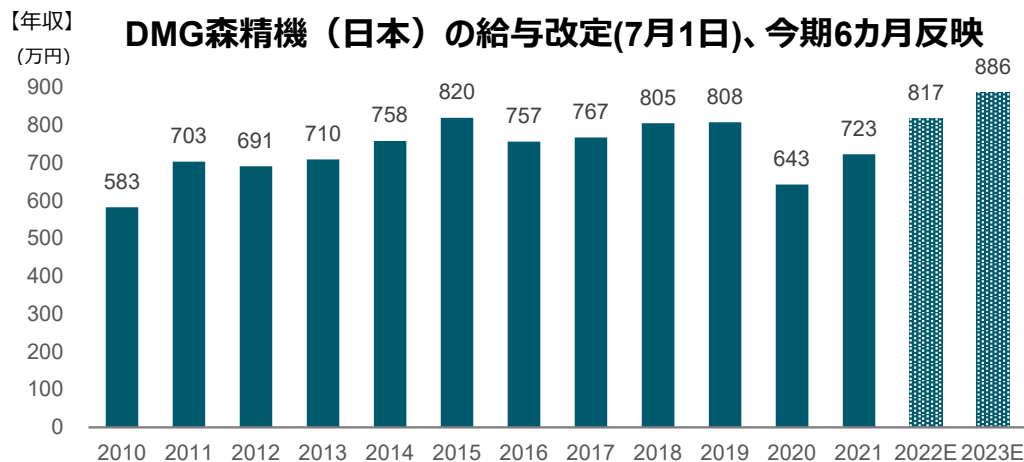
\*1 資格給5万円、技能給10万円含む

\*2 技能給120万円含む

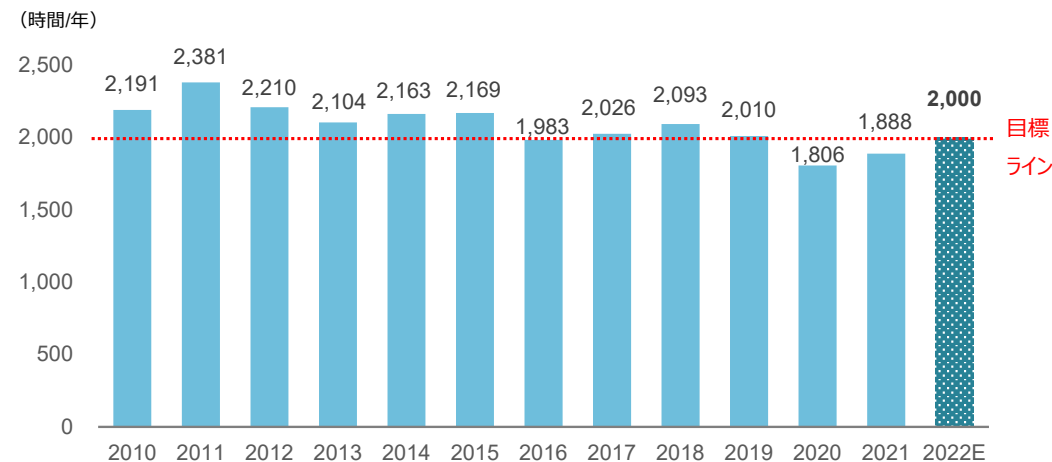
### 平均有給休暇取得日数



### グローバルで給与改定



### 平均総労働時間



# 第17回(2022年) 切削加工ドリムコンテスト

**DMG MORI**



表彰式  
11月8日 (火)  
於：JIMTOF2022  
当社ブース

## 産業部品加工部門

金賞	パナソニック社製 車載用導光体「RSE-LG」	サークルアンドスクエア株式会社
銀賞	フレキシブルターミナル	有限会社湘南オートカット工業
銅賞	絶縁スキマゲージ~0.05~	古賀電機株式会社
銅賞	LAVAL NOZZLE	三栄精機株式会社
技能賞	SS吸着ゴム	キヤノンマシナリー株式会社

## 先端加工部門

金賞	鋼の龍	株式会社J・3D
銀賞	リング in プリリアントカットケース	株式会社アピスト
銅賞	一体型 メタル・スイッチピッチ	KOMINE工業株式会社

## 試作・テスト加工部品部門

金賞	超薄肉金属カプセル	アイジ-エヴァース株式会社
銀賞	よくなる竹釣り竿	キヤノンマシナリー株式会社
銀賞	極細形状のSR0.5mmの透明球	サークルアンドスクエア株式会社
銅賞	削って浮き出て ジャジャジャジャーン!	株式会社キャステム
技能賞	ロングマイクロニードル	キヤノンマシナリー株式会社
技能賞	極薄BOX	株式会社坂田精密

## 芸術造形加工部門

金賞	構造体で発色する キリシマドリシジミ	サークルアンドスクエア株式会社
銀賞	オニヤンマ	山本精機株式会社
銅賞	枝豆根付	リンナイ株式会社

## アカデミック部門

金賞	観覧車 (ゴンドラ可動式)	兵庫県立神戸高等技術専門学院
銀賞	世界最小に挑戦した ミニ立体パズル	近畿大学工業高等専門学校
銅賞	総削り出しスピーカー	ものづくり大学 技能工芸学部 情報メカトロクス学科 武雄研究室
技能賞	ローソク立	大阪工業大学 工学部 機械工学科 精密工学研究室
技能賞	石膏埋め込み式加工を 用いたトビウオの加工	中国職業能力開発大学校 生産技術科 古賀研究室



- ✔ 2021年1月来、**全世界でカーボンニュートラルを達成** (PricewaterhouseCoopers GmbHによる**第三者保証取得**)
- ✔ 2021年11月、**SBT\*認定取得**

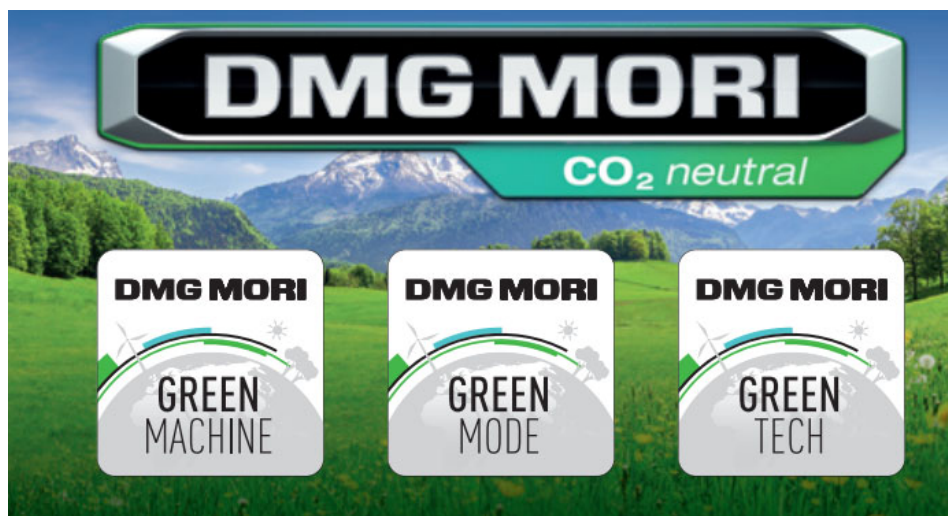


\*Science Based Targetsの略



2021

- ▶ **全世界でカーボンニュートラル達成**  
(Scope 1, 2及び Scope 3上流カテゴリ)



2023~

- ▶ **国内最大規模の自家消費型太陽光発電開始**  
(パネル容量約13.4MW / 伊賀事業所)



# 2023-2025年度（3カ年） 中期経営計画の発表

2022年12月14日 15時より説明会(ウェブサイト配信)予定

当資料には、当社の目標、計画などの将来に関する記述が含まれております。

これらの将来に関する記述は、

当社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいております。

今後の経営方針転換、外部要因の変化により、将来的に実際の業績と大きく異なる可能性があります。

なお、不確定性および変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。

- 当グループが営業活動を行っている市場内における需要環境の変化
- 為替相場の変動
- 当グループが営業活動を行っている市場内における法律、規制及び政府政策の変更
- タイムリーに新商品を開発し、市場に受け入れられるようにする当社の能力
- 当グループが営業活動を行っている市場内における政治的な不安定さ
- 独禁法や輸出管理規制等関連する法規制又はその所轄当局による運用の変更
- COVID - 19に関する日本国及び諸外国の渡航又は自宅待機規制の動向